

農作物技術情報 第8号の要約

令和4年10月27日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	技術対策 今年の栽培管理を振り返り、必要な技術対策を確実に実施したか、コスト面の無駄はなかったかなど、分析や検討を行う。
畑作物	生育状況 ：大豆は、晩播を除き成熟期を迎えている。小麦の出芽、初期生育は良好である。 技術対策 大豆：汚損粒発生防止のため、事前に青立ち株や大型雑草を抜き取るとともに、莢先熟がみられる圃場では子実水分・茎水分の低下を確認のうえ、速やかに収穫を行う。 小麦：除草剤を散布していない圃場は、小麦の生育や雑草の発生状況に応じて土壌処理剤を選択し、必ず散布する。圃場が乾いたら麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避する。
野菜	生育状況 ：果菜類の収穫は終盤となり、出荷量は少なくなっている。ねぎは順次出荷が進んでいる。ほうれんそうの生育は概ね良好である。 技術対策 跡地整理 ：来年の安定生産に向け、栽培終了後は作物残さを適切に処分し、資材の消毒を行うなど病害虫発生源を排除する。 施肥管理 ：次年度作に向け、土壌分析の結果等に基づいた適正な施肥管理を計画する。 施設野菜 ：冬期間に温度確保が必要となる施設野菜では、暖房装置の点検等を含めた省エネルギー対策を実施するとともに、作目の特性や生育ステージに合わせた適正な温度管理を行う。 寒じめほうれんそう ：収穫できる葉長になった時点でハウスの入口やサイドビニールを開放し、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させ、葉柄のBrix値8%以上を確保する。 促成アスパラガス ：根株は5℃以下の積算遭遇時間90時間以上を目安に掘り取り、伏せ込み後の収量を確保する。
花き	生育状況 ：りんどう、小ぎくとも出荷終盤となっている。 技術対策 りんどう：残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行う。 小ぎく：計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保する。
果樹	生育状況 ：りんごの果実生育（横径）は平年並み。果実品質（「ジョナゴールド」）は、硬度、糖度は低く、デンプン指数は高い。 技術対策 りんご「ふじ」の成熟は、やや遅いと予想されるが、着色や蜜入りを待ち過ぎて収穫を遅らせると、貯蔵性の低下や裂果の発生、樹上凍結も懸念されるので、適期収穫に努める。
畜産	技術対策 牧草：翌春の1番草に向け、堆肥散布や土壌pHの改善を実施する。 家畜（子牛管理）：秋～冬の寒さは子牛の発育に大きく影響する。休息場所を乾いた状態に保ち、保温と換気をしっかり行うなど、ポイントを押さえた防寒対策を実施する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「農作業 ゆとりと声かけ 二刀流」

次号は令和4年11月24日（木）発行の予定です